

Phenbarbital in Transgenic Rash2 Mice and Their Wild Type littermates (ILSI Workshop, "Evaluation of Alternative Methods for Carcinogenicity Testing" , November 1-3, 2000, Leesburg, Virginia, USA)

特記事項なし。

3.Hiroshi Suemizu, Yasuyuki Ohnishi, Chika Maruyama, Masashi Tomisawa, Kaori Muguruma, Kyoji Hioki, Toshimi Usui, Minoru Kimura, Norikazu Tamaoki, and Tatsuji Nomura. Molecular Biological Studies in The Rash2 Transgenic Mouse (ILSI Workshop, "Evaluation of Alternative Methods for Carcinogenicity Testing" , November 1-3, 2000, Leesburg, Virginia, USA)

4.N. Tamaoki. The rash2 mouse model: nature of the model. (ILSI Workshop, "Evaluation of Alternative Methods for Carcinogenicity Testing" , November 1-3, 2000, Leesburg, Virginia, USA)

5.N. Tamaoki, H. Yamazaki, H. Kijima, M. Nakamura, C. Maruyama, M. Tomisawa, S. Wakana, K. Urano, K. Hioki, Y. Ohnishi, T. Usui, and Y. Ueyama. Molecular analysis of accelerated chemical carcinogenesis in transgenic mice bearing human prototype c-Ha-ras oncogene. (XXIII International Congress of the IAP, 15-20 October, 2000, Nagoya)

6.大西保行、丸山千佳、富澤政史、末水洋志、浦野浩司、山崎等、鬼島宏、中村雅登、上山義人、三森国敏、臼居敏仁、玉置憲一：ヒトプロト型 H-ras トランスジェニックマウスの化学誘発腫瘍における導入遺伝子の過剰発現（第 59 回日本癌学会総会、2000 年 10 月 4 日-6 日、横浜）

H. 知的財産権の出願・登録状況

厚生科学研究費補助金 (がん克服戦略研究事業)

(分担) 研究報告書

切除不能局所進行型非小細胞肺癌に対する導入治療後の追加化学療法の臨床第 I 相試験に関する研に関する研究

分担研究者 河原正明 国立療養所近畿中央病院 第一内科医長

研究要旨

切除不能局所進行型非小細胞肺癌の臨床第 I 相試験を HOSPnet が補助しうる形で研究を実施している

A. 研究目的

切除不能局所進行型非小細胞肺癌に対する導入化学療法+胸部放射線療法同時併用後の追加化学療法の臨床第 I 相試験を行うことおよび呼吸器ネットワークの利用を通じて第 I 相試験を国立の数施設が共同で迅速にできる様に設置しておき、臨床研究体制確立することである。

B. 研究方法

切除不能局所進行型非小細胞肺癌に対して、胸部放射線治療と化学療法の併用後の追加治療に有用性の研究では対象は非小細胞肺癌未治療例、切除不能、Ⅲ A 期およびⅢ B 期、かつ根治照射可能症例。20-70 歳、PS (ECOG) 0-1 である。

治療としては、先ず MVP

(MMC,Vindesine, Cisplatin) または MNaP (MMC,Navelbine, Cisplatin) と放射線の同時併用療法を行う。引き続き追加化学療法のドセタキセルを 40mg/m² からの増量を行うものである。予定症例数は 44 例である。登録期間は 1 年である。この研究で HOSPdnet を用いて、研究者間の意思疎通を図り、研究の安全な進行が出来るように

補助するかたちで、症例のエントリーと導入療法の報告、追加化学療法へのエントリーと報告、Dose limiting toxicity ならびに急送報告をメイリングリストあてに自動報知する。

(倫理面への配慮)

この研究は全て事前に患者本人からインフォームドコンセントを得て行うものである。

C. 研究結果

呼吸器ネットワークを通じて平成 12 年 10 月 1 日より登録を開始した。参加施設は 19 施設である。現在まで 4 例が登録されている。追加治療の段階に達しているのは 1 例である。ドセタキセル 40mg/m² のステップで 2 月 20 日より開始されている。まだ始まったばかりなのでさらに症例の集積が必要である。

D. 考察

呼吸器ネットワークの利用および第 I 相試験を国立の数施設が共同で迅速にできる様に設置しておくことは、将来の日本での

臨床研究体制確立にも貢献しうることが期待される。そのために、この研究を位置付けて行っていきたい。この第 I 相試験は既存の抗がん剤の併用による研究であるが、今後は新薬剤の第 I 相試験を複数の臨床研究グループを結成し、呼吸器ネットワークを通じて遂行可能かを模索することも需要である。

E. 結論

第 I 相試験を国立療養所の施設で HOSPnet を通じて施行することは可能であった。

F. 研究発表

1. 論文発表

1. Kawahara M, Ariyoshi Y, Fukuoka M, Furuse K. Originality benefit and difficulty of clinical research in the west Japan lung cancer group. *Crit Rev Oncol Hematol*. 2000 Oct;36 (1) :9-12.
2. Takemoto Y, Kawahara M, Yamamoto S, Iuchi K, Mori T, Ueda E, Tsuchiyama T, Furuse K. Synchronous primary adenocarcinoma of the lung and leiomyosarcoma of the small intestine. *Intern Med*. 2000 Aug;39 (8) :655-8.
3. Atagi S, Kawahara M, Ogawara M, Matsui K, Masuda N, Kudoh S, Negoro S, Furuse K. Phase II trial of daily low-dose carboplatin and thoracic radiotherapy in elderly patients with locally advanced non-small cell lung cancer. *Jpn J Clin Oncol*. 2000 Feb;30 (2) :59-64.
4. Kawaguchi T, Yamamoto S, Naka N, Okishio K, Atagi S, Ogawara M, Hosoe S, Kawahara M, Furuse K. Immunohistochemical analysis of Bcl-2 protein in early squamous cell carcinoma of the bronchus treated with photodynamic

therapy. *Br J*

Cancer. 2000 Jan;82 (2) :418-23.

5. Akira M, Atagi S, Kawahara M, Iuchi K, Johkoh T. High-resolution CT findings of diffuse bronchioloalveolar carcinoma in 38 patients. *AJR Am J Roentgenol*. 1999 Dec;173 (6) :1623-9.
6. Furuse K, Fukuoka M, Kawahara M, Nishikawa H, Takada Y, Kudoh S, Katagami N, Ariyoshi Y. Phase III study of concurrent versus sequential thoracic radiotherapy in combination with mitomycin, vindesine, and cisplatin in unresectable stage III non-small-cell lung cancer. *J Clin Oncol*. 1999 Sep;17 (9) :2692-9.
7. Furuse K, Kawahara M, Nishiwaki Y, Fukuoka M, Takada M, Miyashita M, Ohashi Y. Phase I/II study of vinorelbine, mitomycin, and cisplatin for stage IIIB or IV non-small-cell lung cancer. *J Clin Oncol*. 1999 Oct;17 (10) :3195-200.
8. Tohda Y, Iwanaga T, Takada M, Yana T, Kawahara M, Negoro S, Okishio K, Kudoh S, Fukuoka M, Furuse K. Intrapleural administration of cisplatin and etoposide to treat malignant pleural effusions in patients with non-small cell lung cancer. *Chemotherapy*. 1999 May-Jun;45 (3) :197-204.
9. Kubota K, Furuse K, Kawaguchi T, Kawahara M, Ogawara M, Yamamoto S. A case of long-term survival with stage IV small cell lung cancer and early-stage central-type squamous cell lung cancer treated by photodynamic therapy. *Jpn J Clin Oncol*. 1999 Jan;29 (1) :45-8.

2. 学会発表

1. 河原正明他、切除不能非小細胞肺癌に

対するカボプラチン+パクリタセルの第 1 相臨
床試験 (41 回日本肺癌学会総会)
Kawahara M, Originality benefit and
difficulty of clinical research in the the
West Japan Lung Cancer Group, Critical
Reviews in Oncology /Hematology36:9-12,)

G. 健康危険情報

特になし。

H 知的財産権の出願・登録状況

なし

厚生科学研究費補助金（がん克服戦略研究事業）

（分担）研究報告書

ヒト肺癌拒絶抗原（MAGE-3 等）を用いた新しい肺癌ワクチン療法 モデルマウスの確立と新しい肺がん拒絶抗原・抗体を用いた 肺がん患者のワクチン療法開発

分担研究者 井内敬二 国立療養所近畿中央病院 診療部長

研究要旨

（１）肺癌患者 T リンパ球とヒト肺癌が生着した SCID-PBL/hu ヒト癌治療モデルマウスを用いた。MAGE-3 ペプチドで MAGE-3 特異的なヒトキラー T を誘導しうる画期的な系を確立した。さらに、アデノウィルスベクターに CEA-gene を導入し、これを注射することにより腺癌特異的キラー T を誘導する肺腺癌遺伝子治療の系を確立した。

（２）新しい肺癌拒絶抗原（Corixa 研究所 S.Gillis 博士がクローニングした種々の抗原）、およびそれらに対するモノクローナル抗体を用い、本邦の肺がんの特異性を解析した。その結果、肺がん特異的な抗原、及び DNA を明らかにした。

A. 研究目的

肺癌は癌の中でも死因のトップである。当病院は呼吸器疾患の準ナショナルセンター（高度専門医療施設）に厚生省より指定され、最新の化学療法を日本の先端をきって施行するも、大多数は根治し得ず、大きな問題となっている。したがって、全く別の視点からの新しい治療法の実現が必要で、これらの研究は緊急を要し、社会的意義が高く、国民・患者から極めて要請の強い最重要研究課題の一つである。

したがって、①新しい分子標的治療薬の開発 ②肺がん細胞に対する生体防御機構、特に肺がん拒絶抗原に特異的なキラー T 細胞による生体防御機構を解明する。③逆に肺がん細胞が免疫担当細胞を殺傷（RCAS1 抗原）し、免疫監視機構からエスケープする機構の解明を行う。④これらの解明に伴う新しい肺癌ワクチン療法及

び遺伝子治療の開発 ⑤最も強力な集学的治療法（新しい化学療法剤・外科療法・放射線治療のみでなく、最新の肺がんワクチン療法を含めた）を確立する。⑥国立病院・療養所の呼吸器ネットワーク（全国 54 施設）を利用し、国立がんセンター研究所及び大学との共同研究により新しい治療の開発を行うことを目的とする。

B. 研究の方法

（１）ヒト肺癌拒絶抗原 MAGE-3 を用いた新しい肺癌ワクチン療法モデルマウスの確立：Cancer Res 1997 に我々が報告した SCID-PBL/hu モデルを用いた。すなわち、肺癌患者 T リンパ球とヒト肺癌が生着した、担ヒト肺癌 SCID-PBL/hu に、上記の IL-6 関連遺伝子治療（i・p）を行い、自己肺癌に対するヒトキラー T 細胞の分化誘導を明らかにした。

さらに、宝酒造バイオ研 竹迫一任副所長との共同研究で、種々の肺癌拒絶抗原 MAGE-3 や Her-2 等をこの系に用い、ペプチドに対する生体内ヒト・キラーT細胞の誘導の系を世界に先駆けて確立した。MAGE-3 ペプチド + IL-6 関連遺伝子 (IL-6gene + IL-6 レセプター gene + gp130gene) の治療を行った。

さらに、アデノウイルスベクターに CEAgene を導入した (宝酒造との共同研究)。またハーバード大学医学部遺伝子学教授 Richard C. Mulligan 教授との共同研究で MAGE-1 遺伝子をアデノウイルスベクターに挿入した。これらを上記の SCID-PBL/hu モデルに用い、分化誘導をしようする画期的な系を確立した。(岡田全司・河原正明・井内敬二・森隆)

(2) 新しい肺がん拒絶抗原、およびそれらに対するモノクローナル抗体を用いた、本邦での肺がんの特異性の解析

約 10 種の新しいヒト肺がん拒絶抗原をコードする遺伝子クローニングがアメリカ合衆国 Corixa 研究所 Dr. Steven Gillis と Dr. Robert Henderson らにより最近なされた。

① これらのなかから、肺がん拒絶抗原 (組織染色とウエスタンブロットで肺がんの特異的に発現し、正常肺に発現なし) に対する抗体を用い、共同研究で本邦における肺がんの特異性をこれらの抗体を用いて解析した。

② 種々の肺がん拒絶抗原を用いて、まず種々の組織型の肺がん患者の Tリンパ球の *in vitro* での免疫応答を解析した。

③ さらに、国立療養所近畿中央病院の約 50 例の種々の肺がん組織から、肺がんの特異的な遺伝子のクローニングを開始した。(岡田全司・河原正明・井内敬二・森隆)

(倫理面への配慮)

1) 新しい抗癌剤、分子標的治療薬、癌ワクチン、遺伝子治療にかんする研究等に対し、倫理委員会の承認を得、末梢血リンパ球、組織等、研究対象者に対する人権擁護上の配慮と理解 (インフォームドコンセント) を行う文書を作製している。

2) 実験動物に対しても動物愛護上の配慮が十分なされている。

C. 研究結果

(1) ヒト肺癌拒絶抗原 MAGE-3 を用いた新しい肺癌ワクチン療法モデルマウスの確立:

Cancer Res 1997 に我々が報告した SCID-PBL/hu モデルを用いた。すなわち、肺癌患者 T リンパ球とヒト肺癌が生着した、担ヒト肺癌 SCID-PBL/hu に、上記の IL-6 関連遺伝子治療 (i・p) を行い、自己肺癌に対するヒトキラー T 細胞の分化誘導を明らかにした。扁平上皮肺癌及び小細胞肺癌に対するヒト・キラーT細胞の誘導が、固形肺癌のみでなく、胸水中の癌細胞からも容易に誘導しえたことより、新しい肺がん治療を開発するモデルとして有用であることが示された。

さらに、宝酒造バイオ研 竹迫一任副所長との共同研究で、種々の肺癌拒絶抗原 MAGE-3 や Her-2 等をこの系に用い、ペプチドに対する生体内ヒト・キラーT細胞の誘導の系を世界に先駆けて確立した。MAGE-3 ペプチド + IL-6 関連遺伝子 (IL-6gene + IL-6 レセプター gene + gp130gene) の治療により MAGE -3 特異的で HLA-A24 拘束性のヒト・キラー T 細胞を生体内で誘導することに成功した。

さらに、アデノウイルスベクターに CEAgene を導入した (宝酒造との共同研究)。またハーバード大学医学部遺伝子学教授 Richard C. Mulligan 教授との共同研究

で MAGE-1 遺伝子をアデノウイルスベクターに挿入した。これらを上記の SCID-PBL/hu モデルに用いた。その結果 CEAgene 治療により肺腺癌に発現している CEA に特異的で、しかも HLA-A24 拘束性の典型的なヒト・キラー T 細胞の分化誘導をしようする画期的な系を確立した (図 4)。

この SCID-PBL/hu の系は新しいヒトの肺癌ワクチンの開発や、新しい遺伝子治療の開発に重要な武器を提供することが示された。(井内敬二・岡田全司・河原正明・森隆)

(2) 新しい肺がん拒絶抗原、およびそれらに対するモノクローナル抗体を用いた、本邦での肺がんの特異性の解析

約 10 種の新しいヒト肺がん拒絶抗原をコードする遺伝子クローニングがアメリカ合衆国 Corixa 研究所 Dr. Steven Gillis と Dr. Robert Henderson らにより最近なされた。

① これらのなかから、肺がん拒絶抗原 (組織染色とウエスタンブロットで肺がんの特異的に発現し、正常肺に発現なし) に対する抗体と共同研究で本邦における肺がんの特異性をこれらの抗体を用いて解析しつつある。

免疫組織染色で国立療養所近畿中央病院の患者肺癌が強く染色された。癌細胞の細胞質も強く染色された。

② 種々の肺がん拒絶抗原を用いて、まず種々の組織型の肺がん患者の T リンパ球の *in vitro* での免疫応答を解析中である。

③ さらに、国立療養所近畿中央病院の約 50 例の種々の肺がん組織から、肺がんの特異的な遺伝子のクローニングを開始した。

これらの肺がん拒絶抗原ペプチドを用いた新しい肺がんワクチンの開発や、これらに対するヒト型化モノクローナル抗体を用い

た肺がん治療を目指している。(岡田全司・河原正明・井内敬二・森隆)

D. 考察

(1) ヒト肺癌拒絶抗原 MAGE-3 を用いた新しい肺癌ワクチン療法モデルマウスの確立:

Cancer Res 1997 に我々が報告した SCID-PBL/hu モデルを用いた。すなわち、肺癌患者 T リンパ球とヒト肺癌が生着した、担ヒト肺癌 SCID-PBL/hu に、上記の IL-6 関連遺伝子治療 (i・p) を行い、自己肺癌に対するヒトキラー T 細胞の分化誘導を明らかにした。扁平上皮肺癌及び小細胞肺癌に対するヒト・キラー T 細胞の誘導が、固形肺癌のみでなく、胸水中の癌細胞からも容易に誘導しえたことより、新しい肺がん治療を開発するモデルとして有用であることが示された。

さらに、MAGE-3 ペプチド + IL-6 関連遺伝子 (IL-6gene + IL-6 レセプター gene + gp130gene) の治療により MAGE-3 特異的で HLA-A24 拘束性のヒト・キラー T 細胞を生体内で誘導することに成功した。

また、CEAgene 治療により肺腺癌に発現している CEA に特異的で、しかも HLA-A24 拘束性の典型的なヒト・キラー T 細胞の分化誘導をしようする画期的な系を確立した。

この SCID-PBL/hu の系は新しいヒトの肺癌ワクチンの開発や、新しい遺伝子治療の開発に重要な武器を提供することが示された。すなわち SCID-PBL/hu モデルは、世界に先駆けての確立であり、肺がんワクチンのスクリーニングに強力な武器を提供する。これに種々の gene や癌ワクチンを投与して強力な治療系を確立する。(井内敬二・岡田全司・河原正明・森隆)

(2) 新しい肺がん拒絶抗原、およびそれらに対するモノクローナル抗体を用いた、

本邦での肺がんの特異性の解析

約 10 種の新しいヒト肺がん拒絶抗原をコードする遺伝子クローニングがアメリカ合衆国 Corixa 研究所 Dr. Steven Gillis と Dr. Robert Henderson らにより最近なされた。

これらの肺がん拒絶抗原ペプチドを用いた新しい肺がんワクチンの開発や、これらに対するヒト型化モノクローナル抗体を用いた肺がん治療を目指している。すなわち新しい肺癌拒絶抗原 (Gillis 博士との共同研究: 肺がん拒絶抗原の研究は世界の最先端) 数種の中から、最も強く CD8+T 細胞と反応する抗原を選択し、phase I study を目指す。(岡田全司・河原正明・井内敬二・森隆) 平成 14 年度には phase I study を国立病院・療養所呼吸器ネットワークを利用して行う計画をたてている。

E. 結論

(1) 肺癌患者 T リンパ球とヒト肺癌が生着した SCID-PBL/hu ヒト癌治療モデルマウスを用いた。MAGE-3 ペプチドで MAGE-3 特異的なヒトキラー T を誘導しうる画期的な系を確立した。さらに、アデノウィルスベクターに CEA-gene を導入し、これを注射することにより腺癌特異的キラー T を誘導する肺腺癌遺伝子治療の系を確立した。

(2) 新しい肺癌拒絶抗原 (Corixa 研究所 S.Gillis 博士がクローニングした種々の抗原)、およびそれらに対するモノクローナル抗体を用い、本邦の肺がんの特異性を解析した。その結果、肺がん特異的な抗原、及び DNA を明らかにした。

F. 研究発表

1. 論文発表

1.川口知哉, 延山誠一, 光岡茂樹, 須波敏彦, 中宜敬, 沖塩協一, 上野清伸,

安宅信二, 井上義一, 小河原光正, 細江重人, 四元正一, 河原正明, 井内敬二, 山本暁, 古瀬清行 :種々の内科的治療を試みた気管原発腺様嚢胞癌の一部検討. 日本呼吸器学会雑誌. 2000, 38 (10) : 812-816

2.審良正則, 安宅信二, 河原正明, 井内敬二, 上甲剛 :38 例のびまん性細気管支肺胞上皮癌の高分解能 CT 所見. 臨床放射線 2000, 45 (10) : 1224-1225

3. Yuji Takemoto, Masaaki Kawahara, Satoru Yamamoto, Keiji Iuchi, Takashi Mori , Einosuke Ueda, Tessei Tsuchiyama and, Kiyoyuki Furuse : Synchronous Primary Adenocarcinoma of the Lung and Leiomyosarcoma of the Small Intestine. Internal Medicine.2000, 39 (8) : 655-658

4. Teruo Iwasaki, Keiji Iuchi, Akihide Matsumura, Hirofumi Sueki, Satoru Yamamoto and Takashi Mori : Intrapulmonary Mature Teratoma. The Japanese Journal of Thoracic and cardiovascular surgery.2000, 48 (7) : 468-472

5. Iwasaki T, Nakashima M, Watanabe T, Yamamoto S, Inoue Y, Yamanaka H, Matsumura A, Iuchi K, Mori T, Okada M. Expression and prognostic significance in lung cancer of human tumor-associated antigen RCAS1. Int J Cancer. 2000 20;89 (6) :488-93.

6. Iwasaki T, Matsumura A, Yamamoto S, Sueki H, Mori T, Iuchi K. Unsuspected lung cancer accompanied by catamenial pneumothorax. Jpn J Thorac Cardiovasc Surg. 2000;48 (10) :676-9.

7. Iwasaki T, Iuchi K, Matsumura A, Sueki H, Yamamoto S, Mori T. Intrapulmonary mature teratoma. Jpn J Thorac Cardiovasc Surg. 2000;48 (7) :468-72.

8. Takemoto Y, Kawahara M, Yamamoto S, Iuchi K, Mori T, Ueda E, Tsuchiyama T, Furuse K. Synchronous primary adenocarcinoma of the lung and leiomyosarcoma of the small intestine. Intern Med. 2000;39 (8) :655-8.
2. 学会発表
1. 大倉英司, 井内敬二, 松村晃秀, 末岐博文, 桂浩, 田中壽一, 山中秀樹, 松田宙, 山本暁 : (示説) 若年者に発症した肺血管外皮細胞腫の1切除例. 第71回日本肺癌学会関西支部会 大阪 : 2000年1月22日
 2. 川口知哉, 延山誠一, 光岡茂樹, 須波敏彦, 中宜敬, 沖塩協一, 安宅信二, 井上義一, 小河原光正, 細江重人, 四元正一, 河原正明, 井内敬二, 山本暁 : 種々の内科的治療を試みた気管原発腺様嚢胞癌の一部検討. 第66回日本気管支学会近畿支部会 大阪 : 2000年3月10日
 3. 川口知哉, 延山誠一, 光岡茂樹, 須波敏彦, 中宜敬, 沖塩協一, 安宅信二, 井上義一, 小河原光正, 細江重人, 四元正一, 河原正明, 井内敬二, 山本暁 : 種々の内科的治療を試みた気管原発腺様嚢胞癌の一部検討. 第66回日本気管支学会近畿支部会 大阪 : 2000年3月10日
 4. 原英記, 坂谷光則, 審良正則, 山本暁, 井内敬二, 森隆 : 多剤耐性結核患者の経過と予後因子に関する検討 第40回日本呼吸器学会総会 広島 : 2000年03月22日-24日
 5. 大倉英司, 井内敬二, 松村晃秀, 末岐博文, 桂浩, 田中壽一, 松田宙, 白橋幸洋, 森隆, 山本暁 : Pseudosarcomatous thymoma の1切除例. 第72回日本肺癌学会関西支部 大阪 : 2000年07月15日
 6. 松村晃秀, 井内敬二, 末岐博文, 桂浩, 田中壽一, 大倉英司, 松田宙, 森隆 : 当院における高齢者(80歳以上)肺癌切除例の検討. 第72回日本肺癌学会関西支部会 大阪 : 2000年07月15日
 7. 松田宙, 井内敬二, 松村晃秀, 末岐博文, 桂浩, 田中壽一, 大倉英司, 森隆 : 腸結核術後に腸重積を呈した1例. 第85回日本結核病学会・第55回呼吸器病学会近畿地方会 奈良 : 2000年07月01日
 8. 井内敬二 : 呼吸器外科における危機管理. 第65回大阪大学第一外科 臨床座談会 大阪 : 2000年09月09日
 9. 桂浩, 井内敬二, 松村晃秀, 末岐博文, 田中壽一, 森隆, 河原正明, 山本暁 : 当院における肺癌再切除例の治療成績の検討. 第41回日本肺癌学会総会 東京 : 2000年11月01日02日
 10. 松村晃秀, 井内敬二, 末岐博文, 桂浩, 田中壽一, 大倉英司, 森隆 : pN2 肺癌の術後成績の検討 - cN 因子の関与について. 第41回日本肺癌学会総会 東京 : 2000年11月01日02日
 11. 後藤正志, 井内敬二, 白橋幸洋, 大倉英司, 田中壽一, 桂浩, 末岐博文, 松村晃秀, 森隆, 山本暁 : 膿胸壁穿破をきたした慢性出血性膿胸4例の検討. 第86回日本結核病学会・第56回呼吸器病学会近畿地方会 京都 : 2000年12月02日
 12. 白橋幸洋, 井内敬二, 後藤正志, 大倉英司, 田中壽一, 桂浩, 末岐博文, 松村晃秀, 森隆, 山本暁 : 喀痰より診断した巨大肺クリプトコッカス症の1例. 第86回日本結核病学会・第56回呼吸器病学会近畿地方会 京都 : 2000年12月02日
 13. 桂浩, 井内敬二, 松村晃秀, 末岐博文, 田中壽一, 大倉英司, 白橋幸洋, 後藤正志, 森隆 : 低ガンマグロブリン血症を合併した胸腺腫の1例. 第86回日本結核病学会・第56回呼吸器病学会近畿地

- 方会 京都：2000年12月02日
14. 後藤正志, 井内敬二, 白橋幸洋, 大倉英司, 田中壽一, 桂浩, 末岐博文, 松村晃秀, 山本暁, 森隆：再発巣で悪性の組織像を呈した孤立性線維性腫瘍(以下、SFT)の1例. 第168回近畿外科学会 大阪：2000年11月04日
15. 針生寛之, 井上義一, 眞木薫, 岸潤, 光岡茂樹, 吉田亮, 源誠二郎, 鈴木克洋, 坂谷光則, 井内敬二, 審良正則, 山本暁：9年間経過を追えたびまん性肺疾患の一例. 第89回びまん性肺疾患研究会 大阪：2000年06月03日
16. 光岡茂樹, 井上義一, 眞木薫, 岸潤, 針生寛之, 吉田亮, 源誠二郎, 鈴木克洋, 坂谷光則, 井内敬二, 審良正則, 山本暁：ステロイドが有効であったびまん性肺疾患の一例. 第89回びまん性肺疾患研究会 大阪：2000年06月03日
17. 桑名みどり, 井上義一, 眞木薫, 岸潤, 針生寛之, 高藤淳, 新井徹, 延山誠一, 吉田亮, 源誠二郎, 鈴木克洋, 坂谷光則, 井内敬二, 審良正則, 山本暁：慢性関節リウマチ患者に認めたびまん性肺疾患の一例. 第91回びまん性肺疾患研究会 大阪：2000年11月25日
18. Matsumura A, Iuchi K, Mori T, Tada H：Surgical results of peripherally located small lung cancer of 1cm or less in diameter. 9th Word Conference on Lung Cancer. 東京 2000年09月11日-15日
19. Miyoshi S, Iuchi K, Nakamura K, Nakagawa K, Maeda H, Nakahara K, Ohno K, Nakano N, Matsuda H：Preoperative concurrent chemoradiotherapy for invading apical lung cancer. 9th Word Conference on Lung Cancer. 東京 2000年09月11日-15日
20. M. Okada, H. Yamanaka, Y. Katayama, A. Matsumura, K. Okura, T. Sunami, K. Iuchi, M. Sakatani, T. Takesako, T. Mori.：In vivo induction of cytotoxic T lymphocytes specific for lung cancer in the SCID-PBL/hu mice by the IL-6 related genes therapy.